

# 西南学院大学スポーツグラウンド 施設の移転小史

— 干隈から西新・百道浜、そして田尻へ —

岩間 徹

## はじめに

1960年に干隈校地にスポーツグラウンドが整備され、使用開始されて以来、西南学院大学の体育系のクラブ活動は、西新校地と干隈校地に分散して行われていた。前者の西キャンパスには、テニスコート（硬式テニス部）、プール（水泳部）、グラウンド（ラクロス部、硬式ソフトボール部、ハンドボール部、アメリカンフットボール部）、弓道場、ゴルフ部練習場、各種クラブ（剣道部、柔道部、卓球部、バレーボール部、バスケットボール部、空手道部、少林拳法部、体操部、合気道部、少林寺拳法部、バドミントン部、ボクシング部）の使用する体育館及び体育館別棟（フェンシング部）がある。一方、後者では、ラグビー部、サッカー部、硬式野球部、準硬式野球部、ソフトテニス部、自動車部、アーチェリー部が活動していた。（図1、2参照）

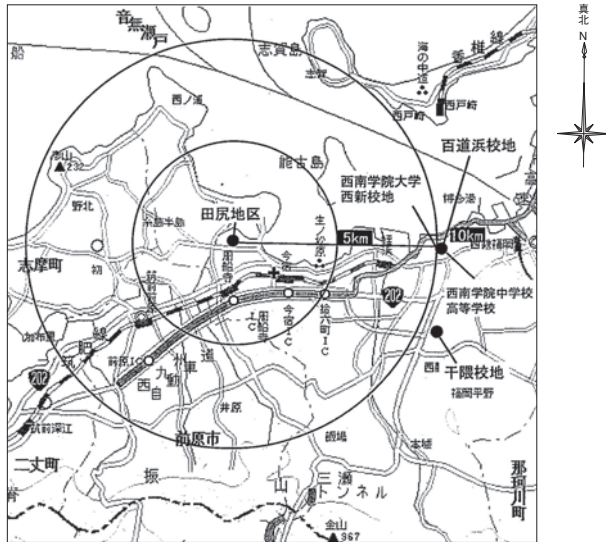
ところが、1991年6月、福岡市から干隈校地<sup>1</sup>の譲渡要請があったことから、干隈校地を使用していた諸クラブの歴史は大きく変わることになる。福岡市が干隈校地の都市計画公園化構想を打ち出したのである。学院・大学内における検討、そして学院・大学と福岡市との交渉の結果、1999年2月16日、干隈校地の譲渡は最終決定された。代替地の候補地についてはいろいろ検討されたが、最終的には、2002年5月24日、西南学院の定期理事会及び評議員会は福岡市西区田尻地区を候補地として承認した。

田尻校地が完成するまでの間、干隈校地を使用していたクラブのうち、サッカー部、硬式ソフトボール部、陸上競技部は、すでに完成していた百道浜校地へ移転し、一方、硬式野球部、準硬式野球部、ラグビー部、ソフトテニス部、アーチェリー部、自動車部は干隈校地を使用していた。

その後、2003年4月に西南学院中学・高校が百道浜校地へ移転した後は、硬式野球

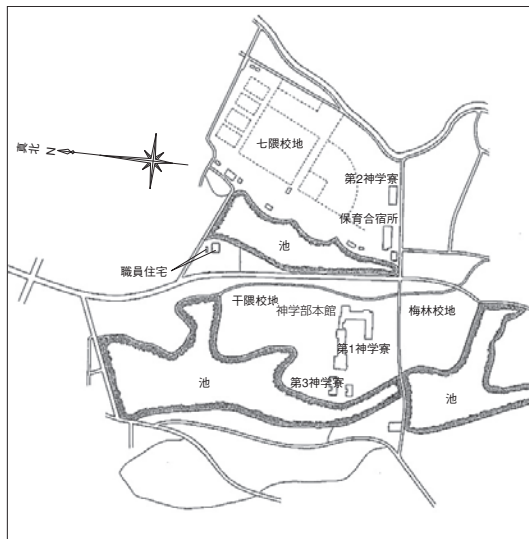
1 正確には干隈校地、七隈校地、梅林校地の隣接した三校地に分かれているが、総称して干隈校地と記す。

図1 西南学院大学 校地位置図



出典：「西南学院大学 田尻グラウンド(仮称)基本計画報告書」  
2001(平成13)年7月より

図2 西南学院大学 干隈校地配置図



部、準硬式野球部、ソフトテニス部、アーチェリー部は中学・高校の移転跡地を、またラグビー部、サッカー部、アメリカンフットボール部、硬式ソフトボール部、自動車部は百道浜校地を使用することになった。(図3-1、3-2、3-3参照)

田尻校地<sup>2</sup>は2007年6月に起工され、2008年10月4日に西ゾーンが、そして2009年10月31日に東ゾーンがそれぞれ竣工、オープンした。田尻グリーンフィールドは東ゾーンのオープンをもって全面オープンしたことになる。

以下では、干隈校地の福岡市への譲渡から田尻グリーンフィールド完成までの経緯を概略説明することにする。

## 1. 干隈校地の福岡市への譲渡

1985年8月、福岡市より学院側に公園化及び緑地保全地区利用計画のために干隈校地を買収したい旨の要請があった。学院側は同年12月、同要請を断ったが、その後も要請があったため、1987年7月、周辺飛地に限り売却した。

1991年6月、福岡市から都市公園用地として再度打診があった。学院側はいくつかの代替候補地<sup>3</sup>の取得の検討と準備を福岡市との協力のもとに進めたが、いずれも決定に至らなかった。

福岡市が干隈校地を含む「西南杜の湖畔公園（仮称）」を都市計画決定したこともあり<sup>4</sup>、学院側は未だ代替候補地を決定できていない状況であったが、1999年2月16日、定期理事会及び評議員会において干隈校地の譲渡を最終的に承認した。その間、1996年4月から6月にかけて、学院・大学は神学部教員、体育関係教員、各組合、関係クラブ部長・監督・コーチ、大学教員、事務局職員を対象に干隈校地の処分について事情説明を行った。また、同様に部長会議、事務次長会議、課長会議でも説明を行った。

1999年3月～6月には売買契約が締結され、2003年度を期限として順次福岡市に引き渡されることになった<sup>5</sup>。

---

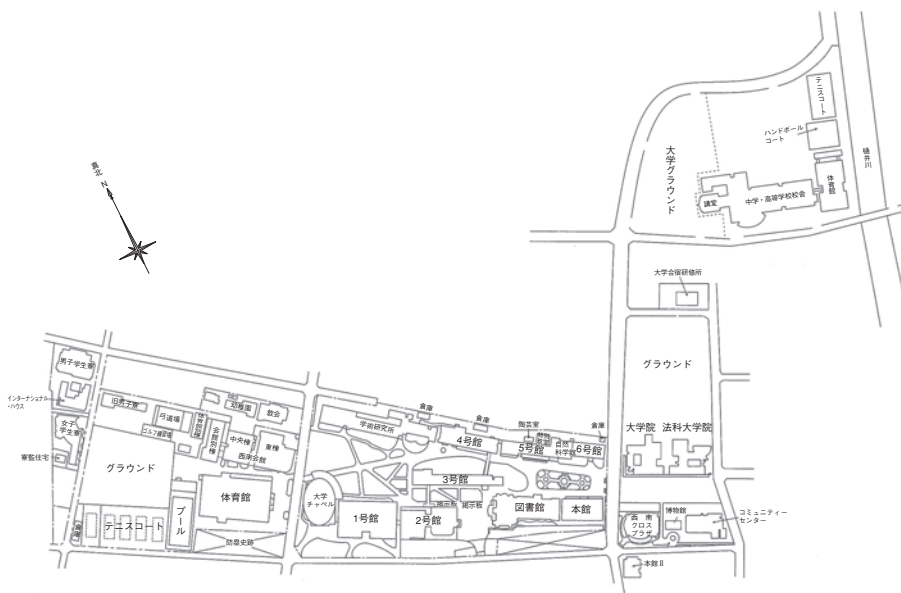
2 正式名称は「田尻グリーンフィールド」。

3 西区田尻地区や前原地区を含む9つの候補地があった。

4 1996年4月15日、福岡市からの「西南杜の湖畔公園の事業の推進について」の文書を受領した。

5 2004年2月に引渡を完了した。

図 3-1 現在の校地・校舎等の配置図（西新・百道浜校地）



## 2. 代替候補地の決定（2002年5月24日）

代替候補地については、上記のとおり、1991年に福岡市から譲渡依頼があったときからずっと学院側は関係者（福岡市、前原市（現糸島市）、福岡市土地開発公社）との間で協議を行ってきたが、一進一退であった。

2000年に入り、状況は一転した。同年の6月15日、常任理事会に代替候補地として西区田尻及び東区香椎浜の土地が協議事項としてあがり、後者は経費・交通アクセスの観点から問題があるとして田尻に絞る方向で検討がなされることになった。同年9月、体育会クラブ代表2名を含む「運動競技施設移転計画事務者会議（委員長：大学事務長）」が設置され、それ以降は、この会議を中心に代替候補地の検討が行われることになった。因みに、この会議の目的は、干隈校地の譲渡及び百道浜校地への西南学院中学・高校の移転に伴う運動競技施設の移転及び利用計画について、関係クラブ代表との情報交換を行い、その結果を常任理事会に報告することであった。

「運動競技施設移転計画事務者会議」は、2000年10月11日、両代替候補地の視察や検討の結果、東区香椎浜は適当ではなく、田尻であれば可能である旨の方向性を打ち出した。それを受け、常任理事会は2001年6月まで、田尻の土地に絞り、取得経費、

図 3-2 西南学院大学 百道浜校地グラウンド配置図

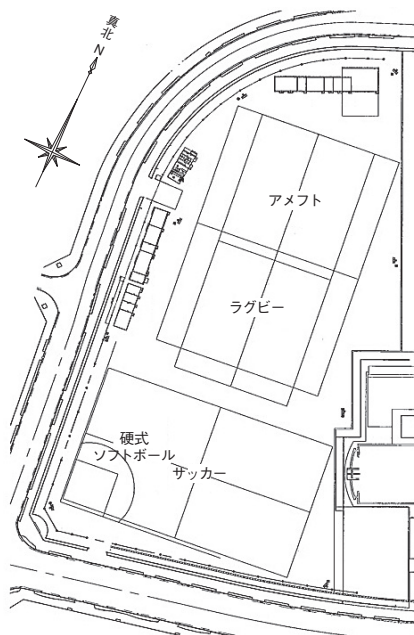
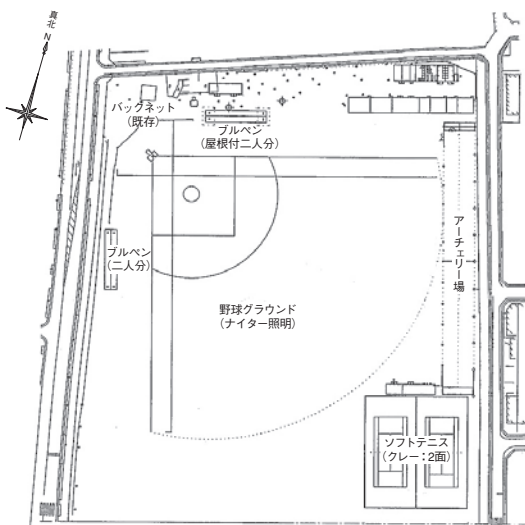


図 3-3 西南学院大学 西新校地東キャンパスグラウンド配置図



区画、面積、競技場配置、取得・整備スケジュール等の検討を行った。その結果は、2001年10月25日の臨時理事会において報告された。その後、同年11月から2002年4月にかけて、大学総合計画委員会、部長会議、課長会議、大学教員、事務局職員、大学教員組合、職員組合、体育会クラブ部長に対し、田尻代替候補地についての説明会が開かれた。体育会クラブ部長やOBの中には田尻代替候補地に関する要望や再考要請を出す者もいた。

2002年5月24日に開催された定期理事会・評議員会において、干隈校地譲渡に伴う田尻代替候補地の取得・整備計画について方向性が承認された。

以上のように、代替候補地として田尻地区が選定されたのであるが、その理由として、学院・大学は以下の6点を挙げている。

- ・市街化調整区域であり、農地転用のできない「農振農用地区域」を含んでいない。
- ・近隣に交通機関、医療施設、商業施設等の施設が整備されている。
- ・九州大学移転を中心とした文教のまちづくりを目指している地区の整備構想とよく整合する。
- ・福岡舞鶴高校や玄洋高校のグラウンド及び田尻田園スポーツ広場等がほぼ隣接している。周辺の現状土地利用状況とよく整合しており、教育施設として良好な周辺環境をもっている。
- ・計画対象地に隣接する「新西部水処理センター」が福岡市により都市計画決定されており、移転したグラウンドが地元の要望する緩衝エリアの役割を担える。
- ・地元より計画対象地に移転を望む強い要望がある。2000年7月に提出された要望書のなかで、地元住民は「新西部水処理センター」の緩衝エリアを望み、また「九大移転に伴う学園都市的なまちづくりの発展・推進」を図っていききたい旨述べている。

### 3. 開発許可申請等

計画対象地は市街化調整区域であり、都市計画法の開発許可申請が必要であった。また、同地は、農地転用のできない「農振農用地区域」ではないが、農業振興地域内の農地であるため、農地法にもとづく農地転用の許可申請が必要であった。その他、国有財産法に基づく国有財産用途廃止（付替）申請も求められた。

ところで、グラウンド配置に最も影響を与えたのは福岡市環境影響評価条例にもと

づく環境影響評価（環境アセスメント）であった。同条例に基づき、2002年8月には環境影響評価方法書作成・公告・縦覧、2004年4月に環境影響評価準備書作成・公告・縦覧、そして2005年9月に環境影響評価書作成・公告・縦覧という手続きを経て、開発許可、農地転用許可等が付与された。

当初、環境アセスメントの対象となった基本計画における土地利用計画によれば、方法書の段階では、計画対象地はスポーツゾーン（野球場、陸上競技場、テニスコート、アーチェリー場、球技グラウンド、自動車部施設）、コミュニティゾーン（広場）、機能ゾーン（中央施設、クラブハウス、駐車場）にゾーニングされていた。（図4参照）

しかし、その後、環境影響評価審査会等の意見を参考に土地利用計画が見直され、事業による動植物に及ぼす影響を低減させることをその主な目的とする「環境保全ゾーン」が新たに計画されることになった。それに伴い、陸上競技場、野球場、多目的広場、中央施設の配置が変更された。（図5参照）

最終的には、2006年4月に設置された「田尻グラウンド競技施設配置計画委員会」（委員長：副学長）における検討を踏まえて図6のような配置図が採用された。

なお、田尻グラウンドの管理運営や利用については、2007年4月に設置された「田尻グラウンド移転委員会」<sup>6</sup>（委員長：副学長）が検討することになり、交通手段、グラウンド名称、施設管理規程、スクールバス運行ダイヤなどについて検討、決定した。その際、移転クラブ関係者の参加する「田尻グラウンド小委員会」に必ず諮る方針がとられた。

「田尻校地整備委員会」はグラウンドの正式名称を「田尻グリーンフィールド」と決定した。また、同委員会は2009年2月、環境保全ゾーンの管理運営について協議するためワーキンググループを設置した（同ワーキンググループは同年6月、答申書提出）。

田尻グリーンフィールド完成後の管理運営については、2008年10月1日に設置された「田尻グリーンフィールド管理委員会」が所管することになった<sup>7</sup>。

#### 4. 田尻グリーンフィールド西ゾーン竣工（2008年10月）

上記の許可を得て、2007年6月にグラウンドの整備工事起工式が行われ、工事が開始された。

---

6 2008年3月に「田尻校地整備委員会」と改称した。

7 これにより、2009年10月15日に「田尻校地整備委員会」は解散となった。



図4 方法書の土地利用計画図

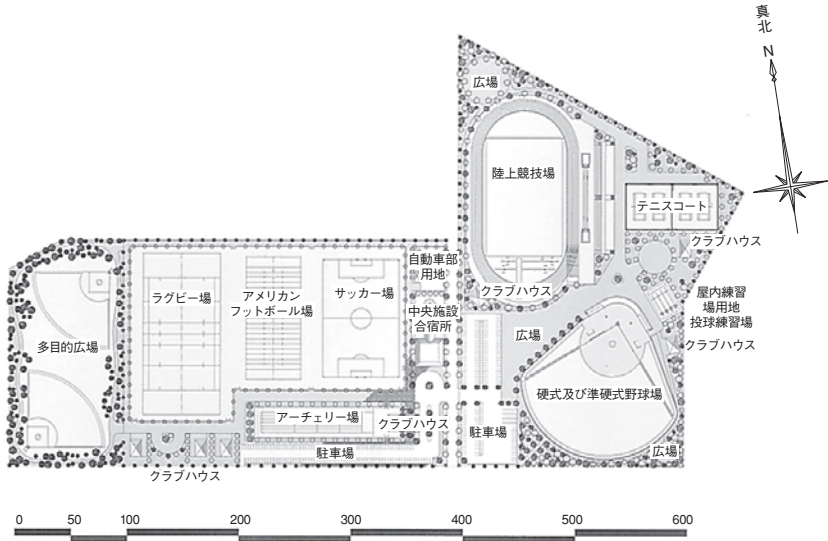


図5 変更後の土地利用計画図

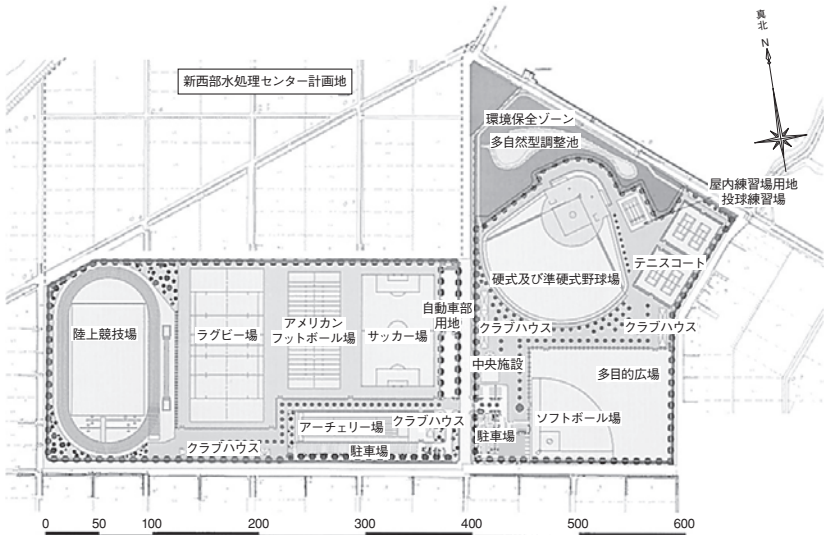
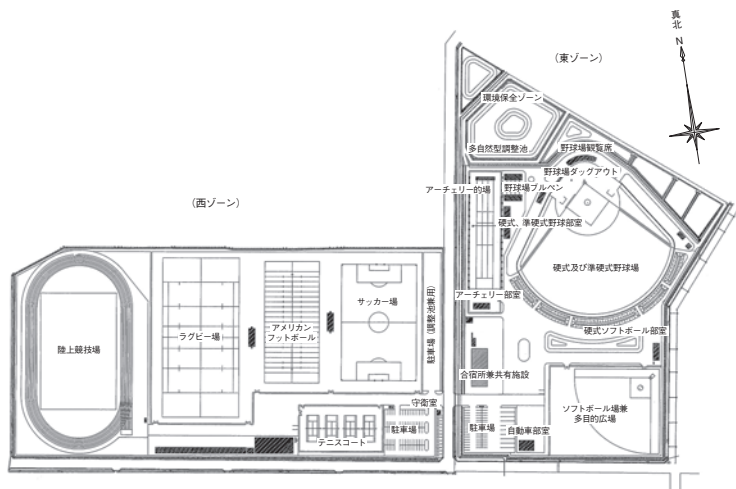




図6 西南学院大学 田尻グリーンフィールド施設配置図



西ゾーンについては、2008年6月に建物（クラブ部室兼倉庫、クラブハウス）の建築工事が開始され、2008年10月4日に竣工式、オープニングセレモニーが行われた。関係クラブのうち、陸上競技部、ラグビー部、サッカー部、アメリカンフットボール部、ソフトテニス部が移転した。（図6参照）

## 5. 田尻グリーンフィールド東ゾーン竣工（2009年10月）

東ゾーンについては、2009年6月に建物（クラブ部室兼倉庫、クラブロッジ、自動車部倉庫）の建築工事が開始され、2009年10月31日に竣工式、オープニングセレモニーが行われた。硬式野球部、準硬式野球部、硬式ソフトボール部、アーチェリー部、自動車部が移転した。東ゾーンの完成をもって、田尻グリーンフィールドは全面オープンしたことになる。（図6参照）

## おわりに

以上のように田尻グリーンフィールドは、1991年から約18年かけて検討し、実現したものである。大学関係者、とりわけ副学長、大学事務長、学生部長、学生部事務部長をはじめとする学生課の皆さん、また学院関係の事務局長、財務部長、施設課や企

画・広報課（当時）、経理課の皆さん、設計・建設会社の皆さんの並々ならぬご尽力の結晶であるといえる。しかし、何よりも、関係クラブの監督・コーチ・部長及び学生諸君の皆さんのご理解とご協力なくしては、今回の移転は成しえなかったであろう。貴重な時間を割いて、ご意見や知恵を出し合い、今日の姿を実現していただいた。

2009年10月9日付の読売新聞、10月14日付の西日本新聞、10月26日付の朝日新聞及び10月27日付の毎日新聞に掲載された紙面広告は次のように報じている。

**西南学院大学総合グラウンド「田尻グリーンフィールド」が全面オープンします。**  
この10月31日（土）、福岡市西区大字田尻に西日本最大級の大学総合グラウンド「西南学院大学田尻グリーンフィールド」が全面オープンします。正課教育と正課外教育の振興、ならびに地域社会への積極的な貢献を目的とし、環境保全ゾーンも備えた施設です。西ゾーンと東ゾーンに分かれ、各種競技を専用グラウンドで行うことができます。

今後、田尻グリーンフィールドの目的が十分に発揮されることが期待される。

最後に、本稿は、学内資料にもとづき作成したものである。資料提供に協力してくださった学内関係部署の皆さんに対し心より御礼申し上げます。



▲広びろとしたグラウンド（田尻グリーンフィールド）